

当行(単体ベース)の営業の概況

平成25年9月中間期の営業の概況 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、政府の機動的な財政政策や日本銀行の金融緩和政策のもと、公共投資が堅調に推移したほか、企業生産が緩やかに増加し、個人消費も回復傾向に転じました。

地元香川県でも、住宅投資や公共投資が増加傾向となったほか、個人消費や企業の生産活動にも持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復基調が続きました。

金融面では、企業の景況感改善に伴い、当中間期末の日経平均株価は平成25年3月末比2,057円89銭高の14,455円80銭となり、長期金利の指標となる新発10年物国債利回りは、平成25年3月末比0.120%上昇して0.680%となりました。また、為替相場につきましては平成25年3月末比3円70銭円安の97円75銭となりました。

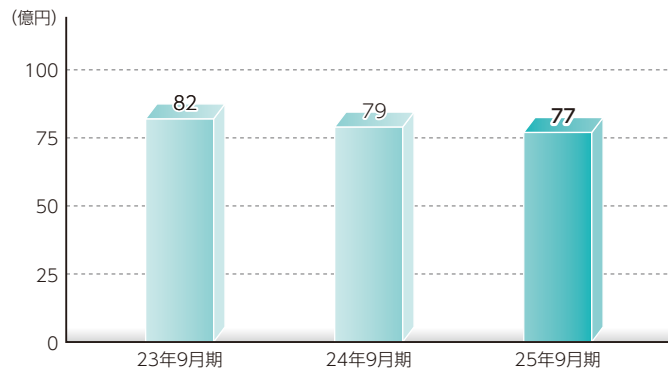
このような金融経済環境のなか、当中間期の業績は次のとおりとなりました。

コア業務純益の推移

コア業務純益は、役務取引等利益が増加しましたが、金利低下に伴う資金利益の減少などにより、前年同期比1億86百万円減少して、77億78百万円となりました。

*コア業務純益とは

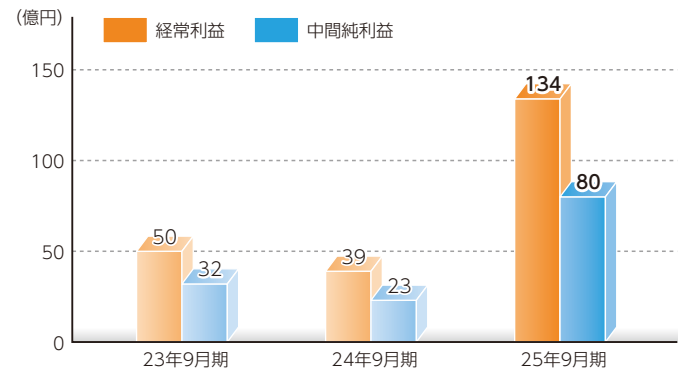
コア業務純益 = コア業務粗利益(資金利益+受取手数料など) - 経費
銀行の本来業務からの利益を表す指標。



経常利益・中間純利益の推移

経常利益は、有価証券関係損益の改善及び与信関係費用の減少などにより、前年同期比95億24百万円増加して134億87百万円となりました。

また、中間純利益は前年同期比57億21百万円増加して80億62百万円となりました。



総預金・貸出金等の残高推移

●総預金

当中間期末の総預金残高は、法人、個人及び公共預金がいずれも増加し、前年同期末比2,445億10百万円増加して3兆8,352億34百万円となりました。

また、お客さまの資金運用ニーズの多様化にお応えするため、個人年金保険、公共債及び投資信託などの預金以外の運用性商品の品揃え充実につとめ、当中間期末の預り資産残高は、前年同期末比153億96百万円増加し、3,790億93百万円となりました。

●貸出金

当中間期末の貸出金残高は、法人向け、個人向け及び公共向け貸出金がいずれも増加し、前年同期末比1,287億22百万円増加して2兆5,670億57百万円となりました。

また、住宅ローンを個人ローン推進の中心に据え積極的に取り組んでまいりました結果、当中間期末の住宅ローン残高は、前年同期末比181億8百万円増加し、4,115億54百万円となりました。

